Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

幼児の声の聞きわけについて

（保育反省の一面から）

土山　汀
大阪商業大学附属幼稚園

Ⅰ．はじめに

生後、2ヶ月では、人の声に対する、反応はまだ、未分化であるが、音と、騒音の区別が少し出来るようになり、4ヶ月頃になり、父親と母親の声に対する反応は、聴覚を通して異なる反応を示すようになる。このようにして、人の声には、それぞれの特徴のあることを知り、成長してゆく、そして、人と話すことを喜こび、人の話を聞くことに興味を示す。

幼稚園では、先生に自分の経験したことや、考えた事などを色々と話す子もいるが、その反面、恥ずかしがって、何も話さなかったり、話題のない子もいる。保育者は、毎日の保育の中で子どもたちと接しながらその子どもたちの話を聞き、子どもの心をくみとり、その子をより深く理解し、指導してゆきたいと願っている、しかし、どれだけ子どもの声に耳をかたむけているだろうか、ともすれば、子どもの声を聞きながらだれが話しているのかを理解せず、ふりむきもせず、聞きながしていることが多いのではないだろうか、もし子どもの声を聞いただけで、だれであるか解かればふりむくことの出来ない時でも、会話はスムーズに続くであろう、はたして、保育者は、自分の受持ちの子どもの声を、どの位、理解しているのか、又どれ位の子どもの声をきき分けることが出来るのか、それが保育の中で役立っているのか、理解出来ていない部分はそれをどのように補っているのかを反省してみたい。

Ⅱ．研究方法

A　保育現場での観察

B　保育者、30人のアンケート

C　保育者に、子どもの声の聞きわけテストをする

対照

大阪商業大学附属幼稚園教諭　4名

時期　61年2月はじめ

Ⅲ．結果

(1)　かごめ、かごめ、をしている、「後の正面、だーれ」で後ろの正面のものをあてる遊びを、保育者と共にしている、声によって、人の名前をあてるだけでなく、聴力の感覚も育つ。

(2)　職員室で仕事をしているA保育者が、ニヤニヤ笑っているところに、B保育者が入って来た、「先生どうされたのですか。」と話しかけると、小さい声で「Aちゃんと、Bちゃんが、面白いことを話しているのよ、と云われても、職員室にはだれも子どもの姿が見えない、注意してみると、外から子どもの声が聞こえて来る、窓をあけてみようとすると、「だめ、だめ、」と止めた、A保育者は、子どもの会話を邪魔しないように、顔をみせず、子どもらしい、ほほえましい会話を聞こうとしていたのである。

保育の中では、しばしば、みられる姿ではあるが、会話が聞こえても、だれが話していたのかわからないまゝ終ってしまう事もある、先生が顔を出すことで、楽しい会話が終ってしまうこともある。だれと、だれの会話かによって意味も深くなり、その子の本当の姿を深く知る為に、役だつ、子どもに気ずかれず、そーっとのぞいてみることもあるが、声で、その子の表情にもふれられるように思う、そんな時、子どもと、先生の距離は、もっと縮まるであろう。

(3)　手技をした後、保育室で片付をしている保育者の後ろから、横から、声をかけて来る子どもがいる、「先生、外に遊びに行ってもいい？」、など、たいしたことでなければ、子どもの顔もみないで、「だめだめ、どうしてかな」、声をかけられた子は、立ちどまって、「アーそうや、今日はお当番やと、」と先生の手伝いをはじめた、顔もみないで、さりげなく声をかけて用をはたしている、しかし、時には、「ごめんごめん、○○ちゃんとまちがった、ごめんね、」遊びに行っていいよ、と云いなおさねばならない、場面もあった。

これらの姿は数々みられたが、はたして、保育者は子どもとの間におこる、これらのことに対して、気がついているのか、無意識のまゝに見のがしているのかが気になる。

B　保育者に対する、アンケート

対照　幼稚園、5園の先生達

年令　21才～56才まで、30人

(1)（現在のクラスを受持って、全員の顔と名前が一致できるには大体何日位か。）

何日位	5	6	7	8	9	10	1ヶ月以上
人数	8	7	5	3	1	1	5
%	27%	23%	17%	10%	3%	3%	17%

先、子どもの名前と顔が一致しなければ、保育は前に進まない、保育の始まるまでに、大体の名前は、お

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

ぼえていても、顔が、なかなか一致しない、この表は約一週間位で大体の先生は一致しているようだ。

(2)(今まで受持ったクラスでは、平均して大体、

(二表) 何日位かゝるか)

何日	5日	7日	10日	新任
人数	10	12	3	5
%	33	40	10	17

特別の条件が無い時は大体同じようなペースで、顔と名前が一致するようである

(3)(クラスの子どもの声、子どもの声の聞きわけに何人位、聞き分けられるか)子どもの声の聞き分けについて、今までに注意して考えたことがないので、わからない、と云いながらも60%が最低であるが、100%と自信を持っているものはいなかった。70~80%位であろうと云うのが多いようである。

(三表)

何名位まで分けれるか	約何%	60	70	80	90	95
	%	10	30	43	10	7

(4)(子どもの声を早く覚えられたのはなぜですか。)

(四表)

早く覚えられたのは	1位	2位	3位	4位
声に特徴があるから	60	40		
しゃべり方に特徴あり	40	50	10	
話し合うことが多かった		10	83	7
特に問題があったから			7	93

子どもの声を覚えるのには、声に特徴があったり、しゃべり方に特徴のあるのが多い。

子どもが、どのような声をしているのか、と云うことは、日頃、あまり考えて保育をしていなかったようで、新たに、何人位の声を聞き分けることが出来るかと云うと、だれもが、あらためて、「あれ!」とか、「サー」、と首をかしげて考込んでしまう。

(5) 実際に、何人の声が聞き分けられるかを、テストしてみた、又4人だけなので、一般的とは云えないが、我園の保育者を、ある一面から見るために、又それらの実態を知るのには役立った。

方法

保育者は壁に向って座れる、子ども達には、「きれいな声で、はっきり云えた人には、先生が、名前を書きます。『○○先生、あそびましょ』と、はっきりした声で云ってね」と、アドバイスして、保育者の後から、耳もとで、話しかける。

保育者がちょっと名前のわからない時は、一番最後にもう一度、声をかけ、正しく答えられる者もいる。何度しても、理解出来ず、と云うものも数名いる。

結果、保育者、3年目の口の結果が最高である。1人の声が不明であったが、もう一度、聞かせたら、すぐにわかったという事であった。

(五表)

保育者名	A	B	C	D
年数	20	14	12	3
受持人数	1 年長	1 年長	2 年小	2 年中
クラス人数 男	13	21	22	24
クラス人数 女	23	16	19	14
合計	36	37	41	38
正しく聞けた	25人	28人	38人	37人
	69%	75%	92%	97%
二度目で正しく	4	4	1	1
聞き分総	7	5	1	

保育者の音楽との関係及びその他

A 保育者研究熱心で努力はどにもをてよく理解し指導している

B 読符活動的で保育に熱心でわれに新しいものを取り入れようとしている

C 読符力の声を特にテープに入れ聞き続けている

D 読符力は少し弱いが聞けるようにひびけると暗符でひける

新しい歌や音楽に対して敏感であり、反応も早いC保育者は、経験12年目であるが、しばしば、子どもの遊びの姿や、話し合いをテープに入れてだれが何を話しているかを記録している、音楽に対しても、興味深く、敏感である。

A保育者は、年令が高い為に耳の感覚が弱って来ているだろうかと考えた。たしかにその点もあるであろうが、B保育者の14年目とは大きい差がない、二人に共通することは、熱心に保育をする。しかし暗符力に対しては、共通して弱い、これが関係するのだとも考えられる。

声を知る事も大切であるが、ことばの中にふくまれている意味を大切にしたいと主張している。

すべての面に、100%出来る保育者はいないことは当然のことであるが、それぞれの保育者に自分でなければ出来ないよい点があったり、その反面、この点が出来れば云う事がないのに、などと話し合う事もある。

保育者としての姿を常に反省し、自分の保育者としての欠を補うだけのものを一方で努力し、子どものために、生き生きと活動出来る保育者でありたい。と共に、人の出来る事は自分もやってみようと云う探究心と、努力する事を忘れてはならない。

NII-Electronic Library Service